



孫悟空

大あばれ



孫悟空 大あばれ

文 唐 澄

絵 巖定憲 浦家祥

林文蕭 陸 青

高 陽 方澎年

外文出版社 北京

孫悟空大あばれ

1980年 初版発行

定価 850 円

出 版 者

外 文 出 版 社

(北京阜成門外百万荘)

発 行 者

中国国際書店

(北京 P. O. Box 399)

日本語版発売者

ほ る ぶ 出 版

(東京都新宿区新宿2-19-13)

代 表 中 森 蒔 人

编号: (日) 8050-1882

88-J-157

00110 (平)

00145 (精)

《^{そん ごくう}孫悟空大あばれ》は、中国の古典神話長編小説『^{さいゆう}西遊
^き記』の中の一つの物語りで、^{び こうおう}美猴王と名のる孫悟空が、
なにものもおそれず、機知にとんだ勇敢さで、敢然とた
たかう姿を、生き生きと描いています。この絵物語は、
同名のアニメーション映画によったものです。



- 1 ^{はな き}花が咲きみだれ、^{みの}くだものがびっしりと実っている^{か か ざん}花果山、^{すいれんどう}水簾洞の外には、^{たき そらたか}滝が空高く^{なが}から流れおちています。なんというすばらしい^{けしき}景色でしょう。
- ^{び こうおう}美猴王と^な名の^{そん ごくう}孫悟空は、^{たの まいにち}サルどもをひきいて楽しい毎日をおくっていました。



- 2 毎日、訓練の時間になると、角笛をあいずに、二匹の小ザルが三日月形のさすまたで高
 だか 高と、滝の水をかきあげます。すると孫悟空が、水簾洞からとびだしてくるのです。



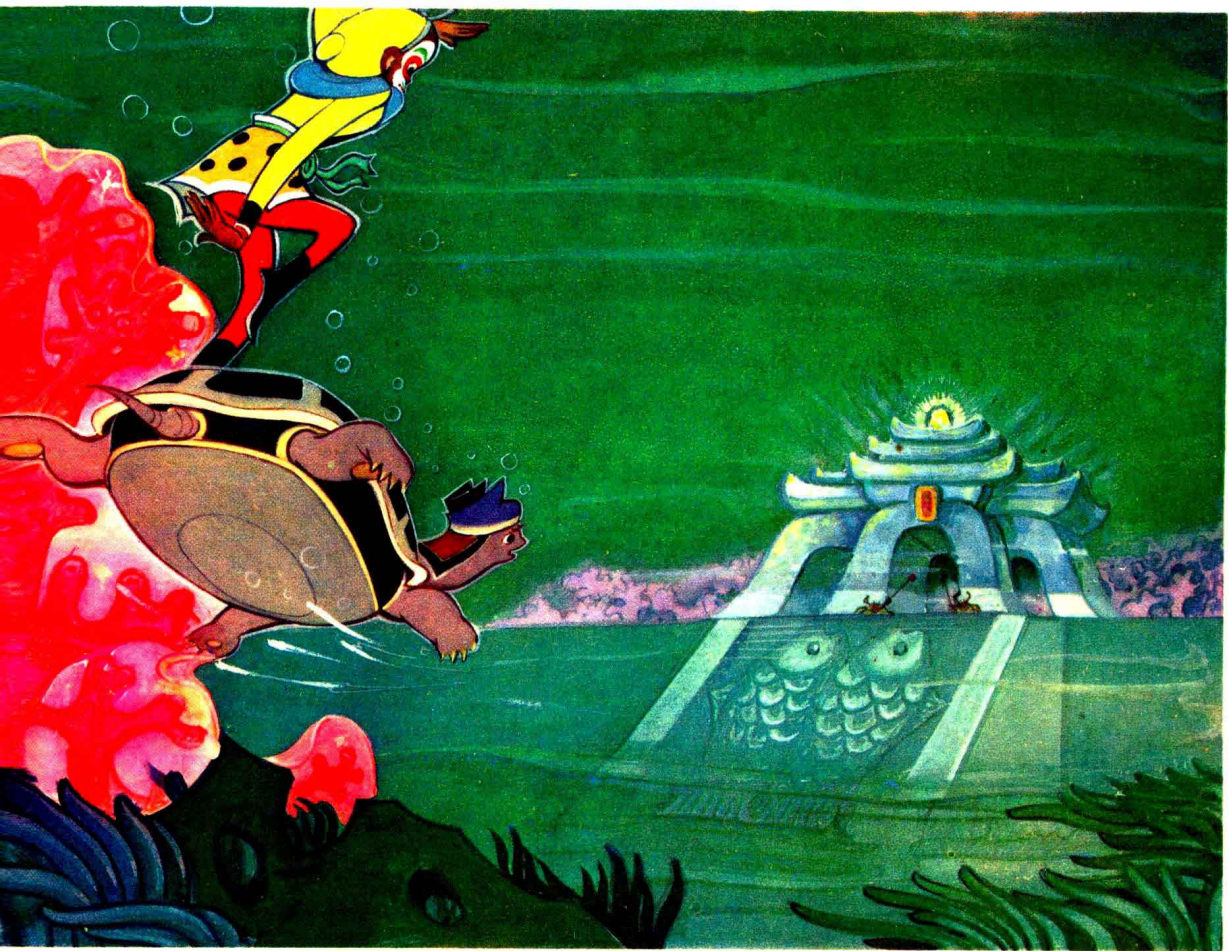
- 3 ひろば と 小ザルどもをしたらがえた孫悟空は、石の台に腰かけて、サルたちが武芸の訓練に
はげむのを見物します。



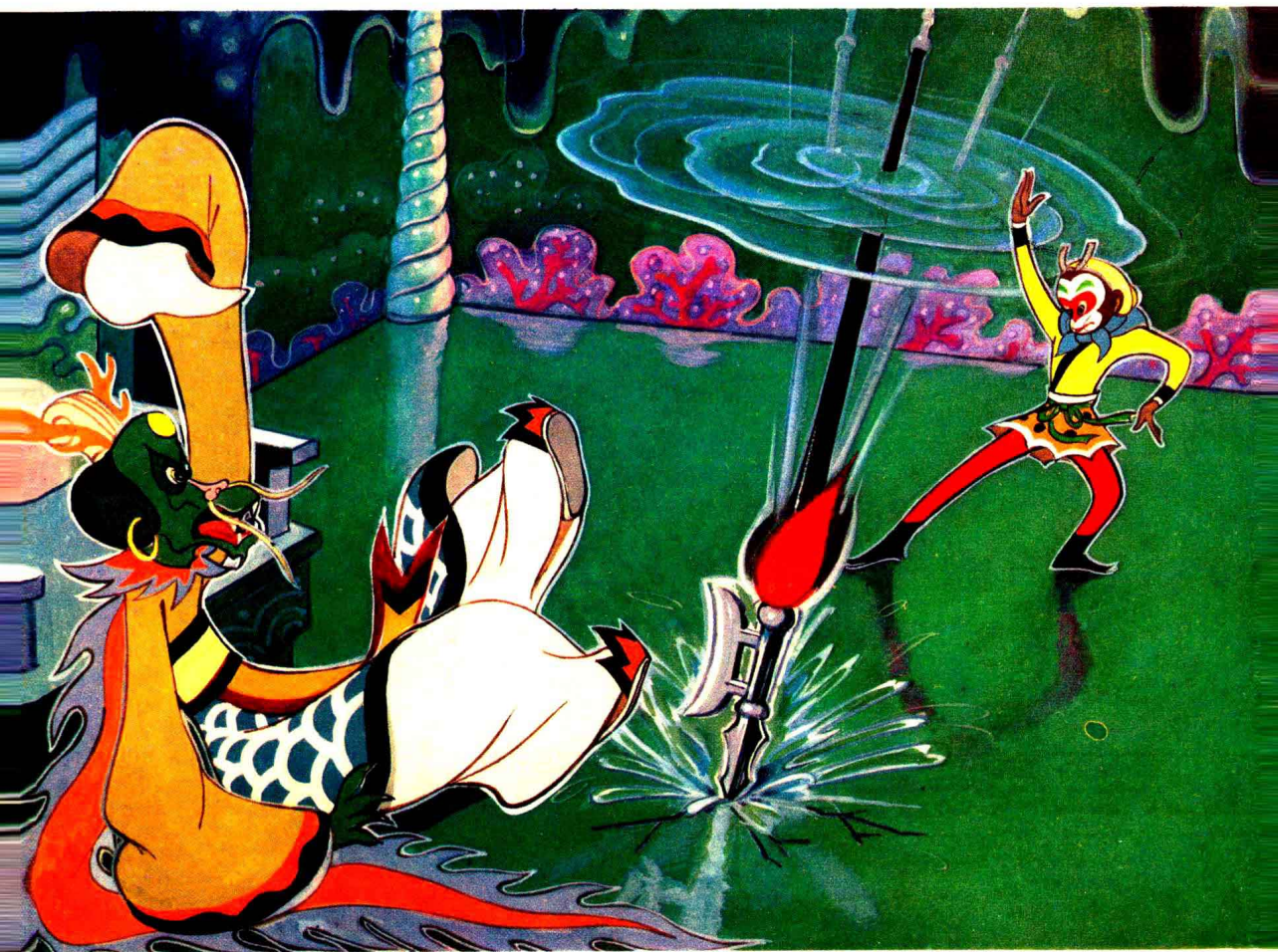
- 4 やがて、腕がむずむずしてきた孫悟空が、広場におどりでて大刀をふりまわすと、まるでいなびかりのようにきらきらと光って、目がくらむほどでした。



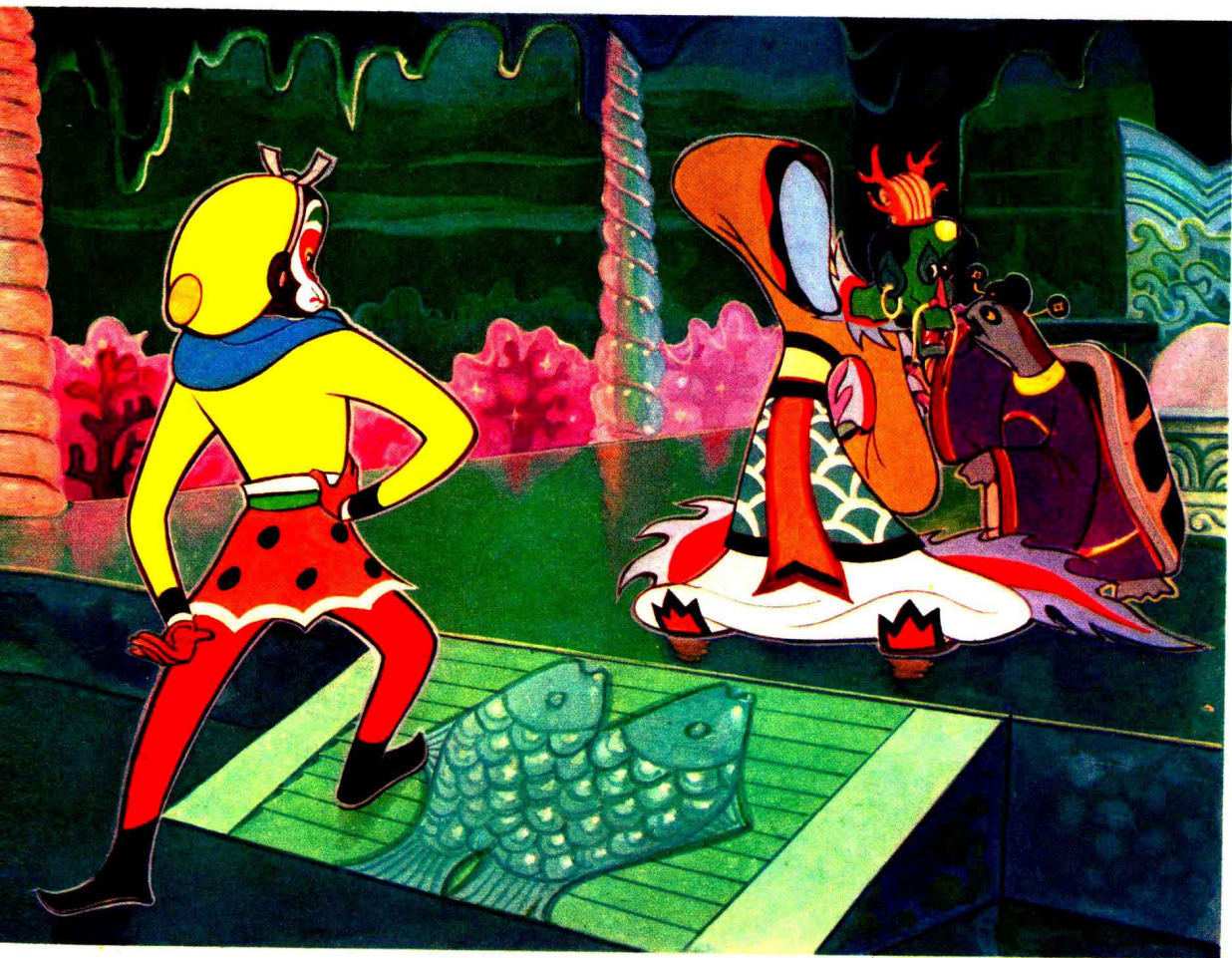
- 5 サルどもが拍手かっさいしたとき、ポキンと音がして、刀はまっふたつに折れてしまいました。孫悟空ががっかりしていますと、一匹の年とったサルが進みでていました。
「王さま、東海竜王をたずねて、武器をおもとめになったらいかがですか。かならずお気に召すものが手にはいるでしょう」



- 6 これを聞いた孫悟空は大いによろこび、すぐさま海にとびこんで、まっすぐ東海の竜宮をめぐりました。



- 7 りゅうおう 竜王はそんごくう 孫悟空がりゅうぐう 竜宮にやってきたわけを聞いて、てきとうなぶき 武器を一つくれてやれば
よかろうと思ったのです。ところが、とんでもないことがおこりました。つきからつき
に出してやるおも 武器が、どれもみなそんごくう 孫悟空にねじ曲げられたり、あっさりほうりだされて
しまうのです。おも 重ささんぜんろつびやく 三千六百キロのほうてんげき 方天戟（ほこ）でさえかる 軽すぎるというのです。



8 ^{りゅうおう} 竜王はおっかなびっくりでいました。

「^{りゅうぐう} 竜宮で一番重^{いちばんおも}いのはこのほこじゃ。ほかにこれといった、^{ぶき}武器はありませんぞ」

^{そん ごくう} 孫悟空がどうしても^{しん}信じないので、^{りゅうおう} 竜王はこまってしまいました。そのとき、^{かめだいじん} 亀大臣が
そっと^{みみ}耳うちをしますと、^{りゅうおう} 竜王はしきりにうなずきました。



9 りゅうおう 竜王は そんごくう 孫悟空を あんないして 海の底にやってきました。あたり一面に いちめん 金色の光が輝き わた わたっています。 りゅうおう 竜王がいました。

「あれは うだいおう 禹大王が こうずい 洪水をおさめたときに、おいていった、海の底をかためる うみそこ 神針鉄で しんしんてつ 針鉄です。あなたがもてるなら、さしあげますが」

そんごくう 孫悟空は、いきなり しんしんてつ 神針鉄めがけてとびかかりました。



10 しんしんてつ めと なが きんじゆう そんな ぐう
神針鉄は太さはかかえきれないほど、長さも三十メートルほどはありました。孫悟空は
りょうて だ
両手で抱きかかえながらいいました。

「これはちょっと太すぎるし長すぎる。もうすこし細くて短いといいんだが」
いいおわったとたんに、その宝ものはみるみる小さくなりました。そんな ぐう おお
ちから ぼう りゆうぐう
で、力まかせにその棒をひきぬきました。すると、竜宮はぐらぐらとゆれるのでした。



- 11 ^{そんごくう}孫悟空が^{ぼうて}この棒を手にしてみると、それは、^{りようふたきん}両はしに二つの金のたががはまった^{くろぐろ}黒々とした^{てつぼう}鉄の棒です。たがのまん中^{なか}には、文字^{もじ}が一行^{いちぎようきぎ}刻んでありました。

^{にようきんこうぼう}如意金箍棒 ^{おも}重さ一万八千キロ

すっかりうれしくなった^{そんごくう}孫悟空が、ふたたび、

「^{ちい}小さくなれ、^{ちい}小さくなれ」

とささやくと、^{てつぼう}鉄棒はぬいばりほどに^{ちい}小さくなりました。^{そんごくう}孫悟空はそれを^{みみ}耳のなかにしまいこみ、^{りゅうおう}竜王にお礼をいいました。^{りゅうおう}竜王は^き気が変わって、やるのがおしくなりましたが、^{そんごくう}孫悟空はさっさともちかえってしまいました。



- 12 東海 竜王は天界にのぼり、孫悟空が神針鉄をうばって、水のなかに住むものをおどろ
 かせ大いに竜宮をさわがせたと、うそをついて、玉帝にうったえました。そして、ど
 うか孫空悟を罰してくださいとたのみました。



13 玉帝ぎよくていはまわりの神さまかみたちにたずねました。

「孫悟空そんごくうとは、なにものじゃ」

すると太白金星たいはくきんせいがすすみでて、こうせつめいしました。

「このサルは五百年前ごひゃくねんまえ、天地てんちの精気せいきをうけて生まれでた石いしザルでございます。いまでは仙術せんじゆつをおさめて神通力じんつうりきをもち、竜りゆうにも虎とらにもうち勝ちますから、侮あなどることはできません。願ねがわくば、奴めやつを天上界てんじようかいに呼びいだし、いささかの役目やくめにつけて天上てんじように留めおられますよう。そういたしますれば、たくさんの軍勢ぐんぜいを動かうごかすことなくすむかと存ぞんじます」玉帝ぎよくていはそれにさんせいしました。